



幼馴染みは気になっている。

覗き？

なんか最近夜風呂とか
部屋とか覗かれてる
気がするんだよ…

え〜…



あなたのこと覗く
物好きがいるとは思えないけど...

いやそうだろうけどさ
なんか気味悪いんだよ

相変わらず
ビビりだなく

それとは
別なんだよ!



覗きが怖いなら
ウチ来てもいいよ？
一緒にいてあげる

余計なお世話だよ！

遠慮しなくても
いいのにな

そんな事気にしてないで
部活に集中したら？
大会近いんだし

うっ…
それはそうだけど

ほら、
トボトボ歩いてると
遅刻するよ？

あ、ちょっと
待てよ…！！

朱里とは家も隣同士で
幼い頃からいつも一緒に
幼馴染みだ。
何でも話せる関係だけど
今の話は色々
ネタにされそうだ…。

はあ……やっぱり
気にし過ぎなのか

夜、風呂に入っていると
窓の外に気配を感じた……





朱里・・・お前だったのか

.....

俺の事覗くような物好きは
いないって言ってたよな？

昔からだけど俺の部屋に
来ると妙にしおらしく
なるんだよな…朱里

それにこの目は
マジだな…

…だって私は太一の事
気になるもん…

なんでだよ

だってお風呂も
お泊りもないし…

子供の時じゃ
ないんだから

それで太一が部活の時とか
水着がその…気になって
昔と違うのかなって

部活中も覗いてんじゃねーよ
て、ことは俺が見たいと…

…うん



ほらよ

…わあ

ガキ

ガキ

朱里にチ○コ見られるなんて
本当にガキの時以来だな…

ガキガキに勃起してるのを
まじまじと見られて
滅茶苦茶恥ずかしい…。



触っていい？

…ああ

うっ

あ…痛かった？

いや、大丈夫

んんんんん

おつきくて温かい…
子供の時と全然違うんだね

ま、まあな…

ドキ…

ドキ…



な、舐めてみてもいい？

…本気か？

本気だよ

んっ♡

もう好きに
してくれ…

うん

…ちゅっ
しゅっばい♡

朱里が俺のを…
すごい光景だ。

夢じゃないよな？

んっ♡

んっ♡



太一のおっきくて
全部は無理だけど...

頑張るね♥

朱里...っ



ちよ...おらー！
そのまじでなくても
らっっっ...！

私がしたいんだから
いいの...！

子供の頃ふざけて
キスしたりしてた
あの口で...！

んっ...♥
んっ...♥
んっ...♥

んっ...♥
んっ...♥
んっ...♥



どう上手に
出来る??

ああ…すっげえ
気持ちいい…!!

よかった…♡

ん♡

ん♡

ちゅ♡

ちゅ♡
ちゅ♡

朱里…俺
もう…っ!!

ういよ太一♡

こんなの…こんなの
我慢できるわけない…!!

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡



朱里っ!
あああっ!

んっ...♡

んっ...♡

んっ...♡

クワクワ
クワクワ
クワクワ

んっ!
んっ!
んっ!

きて♡太一♡
ちょうだい♡

じゅん...の♡お
出すからっ!



全部飲んじゃった…♡

はあ…♡

はあ…♡

そんな無理
しなくても…

太一のだもん
平気だよ♡

朱里…

あー♡

フム…♡

フム…♡

で…きっかけは
何なんだよ？

太っつてば水泳部入ってから
身体ガッチリしてきたでしょ？
それで気になっちゃって…

だったら朱里だって
最近胸とか体つきが…
その…すごいぞ？





!!?

...アハハ...

まあ...その
俺だって男だからな

太一も私の事
気になるんだ...



太一が好きに
していいって
言ってくれたから...

私のことも好きに
していいよ...

朱里...

ん...

ん...

ん...

ん...

ん...

おっぱい揉んで
ほめてあげて



んっ♡

ああ…柔らかい

朱里…この触り方
痛かったりとか大丈夫か？

うん…平気
太一優しいから♡

そんなに
びびんなくても
大丈夫だよ♡

んっ♡

ゆっ♡

んっ♡

うっせー

ぽっぽっ…♡

ふっふっ

ぽっぽっ…♡



あっ……♡

んっ……♡
ちゅっ♡
ふっ……♡
んっ……♡
んっ……♡
んっ……♡
んっ……♡
んっ……♡
んっ……♡
んっ……♡

朱里……

こうして
キスするのも……

久しぶりだね……
嬉しい♡

もう我慢できなくて
気が付いたら朱里の
唇を奪っていた……。

いつも太一の方
からチューして
くれてたよね

朱里の事
好きだからな……

幼い頃はお互いに好きだって
言い合ったりキスしたりして
ふざけて遊んでたっけ……

んっ……♡
んっ……♡
んっ……♡
んっ……♡



こっちも
見たい…

ふふふ

ほあ

ほあ

あ…

ふふふ



おお…

どう?
変じゃない?

あ…♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

変なもんか

もう恥ずかしい事
言わないでよ…♡♡

見せ合いつことかしてた時は
なんとも思わなかったけど
すごい綺麗だ…



うわ…朱里
これスゴイぞ

もう…
見せなくても
いいって♡

あ…♡

太ーだっけガチガチに
勃起してたクセに…

仕方ないだろ…

お互い様だね♡

たっさ…



ああん♡♡♡

ああん♡♡♡もう!
いきなり!?

とぅうとぅで
俺も舐めるからな

朱里の味がする...

ああ...もうこれ
恥ずかしいから...

ピクピク

ゴ~~~~



自分だって散々俺の舐めまわしてただろ？

そ、そうだけども...

気持ちよくないのか？

すま...♡

あ...♡

あ...♡

太一が舐めてくれてるんだもん
気持ちよすぎてどうにか
なっちゃいそうなの...

あああああ♡

ぞ...♡

ぞ...♡

は...♡

は...♡

は...♡

は...♡



…太一♡

はあ…♡

はあ…♡

…いいよな？

俺だってそうだよ…
朱里のために頑張るから

私、初めてだから…

下…♡
下…♡

下…♡

下…♡

クチャ…♡



朱里…いぐぞ！

太一…きて♡

あっ…♡

あっ…♡

ん…あああ♡

ぐっ
ぐっ
…

ア…
ア…
ア…



うっ……うっ……うっ……

朱里……大丈夫か!?

はあ……♡

はあ……♡

うん……大丈夫……

大好きな人と
繋がれたんだもん
嬉しくって……♡

俺だって……
朱里のこと大好き
だから嬉しいよ

太一……♡

もう俺たちはただの
幼馴染みじゃない……
やっとお互いの
気持ちを素直に言えた。

ドッ……♡

ギョ……♡

ドッ……♡





あああつ!
朱里の膣中気持ちいい!

私も♡太一の熱い♡
幸せで気持ちよくて…
頭フワフワしちゃう♡

太一♡もっと♡

ああん♡

あ♡
あん♡

ああ♡♡もう私…
イっせやいな♡

俺も…もう出さうだ!
一緒にイこう! 朱里!

ド♡
ズン♡

ズン♡

ズン♡

ズン♡

ズン♡

ド♡
ズン♡



んっ♡♡♡ん♡♡♡ん♡♡♡

あっ♡♡♡ふい♡♡♡

んっ♡♡♡んっ♡♡♡

ああ♡♡太い♡♡

朱里っ!

んっ♡♡♡んっ♡♡♡

んっ♡♡♡んっ♡♡♡

んっ♡♡♡んっ♡♡♡

んっ♡♡♡んっ♡♡♡

んっ♡♡♡んっ♡♡♡

んっ♡♡♡んっ♡♡♡



あっ…溢れてきた♡

すっげえ出た…
自分でびっくりだ

気持ちよかったもんね♡

ああ…すぐく

はあ…♡

はあ…♡

だから…

♡ぎゅっ♡

♡…07♡

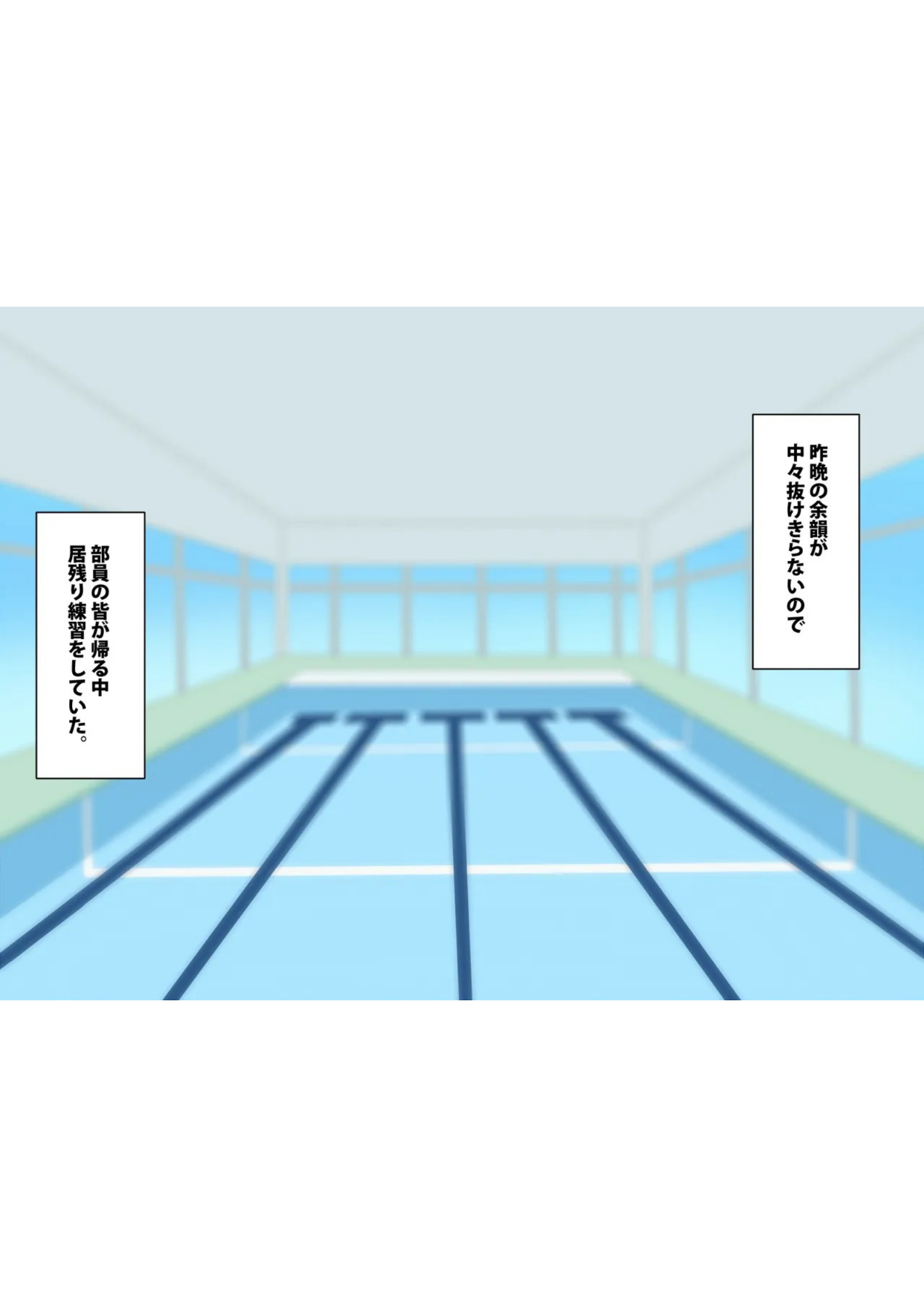


ああんっ♡

朱里っ！

ガバッ

もう夢中で一晩中エッチした。



昨晚の余韻が
中々抜けきらないので

部員の皆が帰る中
居残り練習をしていた。

朱里のやつ家で
待ってるかな…

おっせと帰るか

…ん？



えへへ…

何やってんだよ

カ
カ
カ
カ
カ





いつから
覗いてたんだよ...

部活の始めから♥

まだ覗き足り
ないのかよ

だって太一のこと
気になるんだもん♥

それに誰もいないから
そのままエッチできる
かなって...♥

はあ...♥

あ...♥

たっ...♥

たっ...♥

トク...♥

トク...♥



おっぱいでして
あげようかなって
待ってたんだから♥

鍵かけてれば
大丈夫だって



お、おい…
ホントにいいで
すんのかよ

ぞくぞく…



ちょっと…私が
してあげてるのに
やめてよ



朱里ベツトベツトに
なってるぞ？

俺の方にケツ向けとして
何言ってるんだよ
うん…

ん…

ん…

ん…

ん…

ん…



すっげー気持ちいい

それでおっぱい
どうなの？

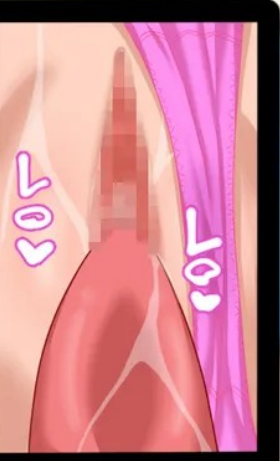
んっ♡
んっ♡
んっ♡
んっ♡

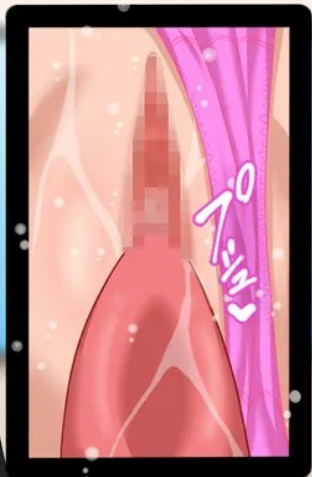
でしょ♡でしょ♡
太一のために育てた
お乳なんだからね♡

だから
感謝してよね♡

ホントかよ

たっ♡
たっ♡
たっ♡
たっ♡





じゃあ遠慮なく
朱里の胸で...

あんっ♡

イクぞっ!

あっ♡

わんわん

ぐんぐん



はあ……♡

はあ……♡

軽くイってただろ

もつとちゃんと
イキたかったの！

じゃあ次はちゃんと
一緒にイくか……
ほら、立って立って

うん♡

もおろ……一緒に
イキたかったのに……



あっ...ああ!
朱里の膣中ドロドロで
蕩けてすごいぞ!

太一もさっき
出したばっかなのに
ガチガチで熱いよ♡

ズグウ...♡

あっ...♡

あっ...♡

二人でいっぱい
気持ちよくなるっ♡



あぁっ!♡♡♡♡♡
おあん♡♡♡♡♡

太一すげえよお♡

うん♡♡♡♡♡ きてえ♡♡

もっ! 気だらくぞー!
じゃあ...

ぽんぽん

ぱんぱん

ぽんぽん

ぱんぱん



ああんっ♥太一っ♥
すごい♥奥っ♥ああっ♥

まだまだ
いけるぞ!

ああっ♥そんな…
押し上げられてる♥
ふあ♥ああんっ♥

はっ♥
ああんっ♥

あっ♥キヌる♥
きぢやう♥すぢいの♥
きぢやう♥てる♥

今度は思いつきり
二人でイクぞ!

うん♥イク♥
太一といっしょに♥

ズンズン
ゴッゴッ
ズンズン
ゴッゴッ
ズンズン
ゴッゴッ
ズンズン
ゴッゴッ



朱里っ！

はっ♡ああっ♡イク♡
太一♡太一♡♡あああ♡

ああっ♡ああんっ♡

あーん♡あーん♡

あーん♡

んっ…っ…っ…♡

んっ…っ…っ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡

んっ…♡



すげー勢いで
潮吹いたな…

私もびっくり
太一のおち○ちん
気持ちよすぎ♡

ちゃんと思いつきり
一緒にイケたな…

うん♡でも…

は…♡

は…♡

もっと…もっと
エッチしたい♡

ム…♡

ム…♡

ム…♡

おち○ちん
おち○ちん



ああっ♡後ろもいいけど
下からもズンズン好き♡
気持ちいいよお♡

お前…俺の部屋以外だと
ホントぐいぐいくるな!

もーいいでしょ♡
太一の部屋だと
ドキドキして
緊張しちゃうの♡
何だよそれ
わかんね…

ああっ♡
まあっ♡

はっ♡
はっ♡
はっ♡
分かんなくていいの…!

えいっ♡

うおっ!!

ズン♡

ズン♡

ズン♡

ズン♡



うん♡イクっ♡イクイク♡
さっきよりもすごいのっ♡

あっ♡
あん♡

はっ♡
たっ♡

いいぞ！さっきよりも
吹かせてイカせてやる！

ああっ♡はあっ♡
いいところ当たる♡
もう腰が止まらない♡

ああ♡くる♡
またきゅ♡
お潮出ちゃうっ♡

ズニ♡
ズニ♡

ズニ♡
ズニ♡

ズニ♡
ズニ♡

ズニ♡
ズニ♡

ズニ♡
ズニ♡

ズニ♡
ズニ♡

ズニ♡



はあく飛んだ飛んだ
気持ちいいっ♡

ああ…びっくりした
顔まで飛んできたぞ

あはは…ごめん

はあー♡

はー♡

でもこんなに気持ちよく
イってくれたから嬉しいよ

もくなんか
変態みたい♡

お前が言っな

ふん♡

ふん♡
ふん♡
ふん♡

その夜…

昼間あれだけエッチしたのに
朱里のことが気になって…
俺は朱里の部屋を覗いていた。

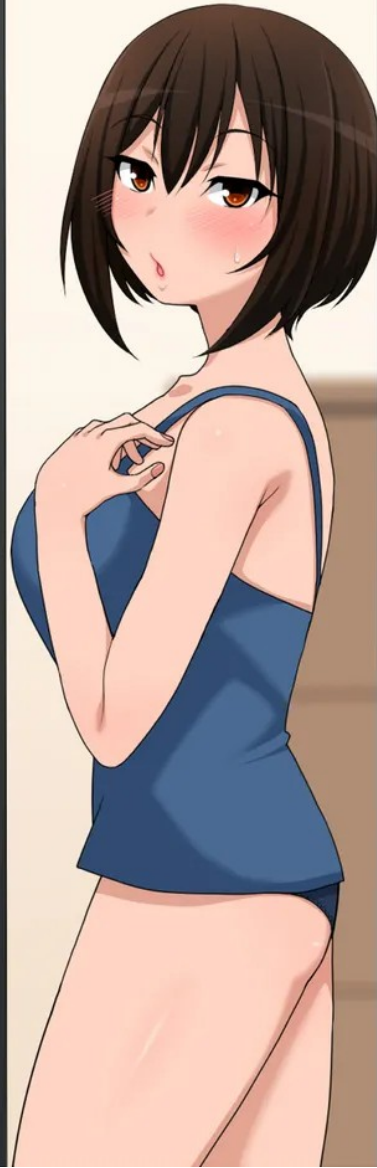
何してんの？

っ!?



バレたか？

バレバレだけど



なに自分も
覗いてんのよ…

朱里のことが
気になってさ…

もう…
入って♡



悪かったよ...

もう...こんなにして♡

エッチしたいなら
素直に言えばいいのに

ちゅっ♡
ちゅっ♡

んっ♡
んっ♡



袋もこんなに
パンパンにして♡

うおっ!?ちよ...
それ反則...っ!

ほらほら出し
ちやいなさいよっ

お...おい...
朱里...っ!

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡

ん♡
ん♡



玉袋ドックンドックン
精子送ってる…すごい♡

めめっ…めめっ…めめっ…

んんう♡

ピクピクピク

んんん…んんん…

んんんんん♡



どンドン出てくる……♡
太ってばちよつと体力
持て余しすぎじゃない？

しょ、しょうがないだろ
気持ちいいんだから……

しっかり搾り取って
おかないとね♡

……お……お……お……

ん……♡

ふ……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡

ん……♡



んっ…ああ…♡
ホント全然萎えないね♡

結構マジで搾り取って
みたんだけどなあ…

はぁ…♡

はぁ…♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

朱里といっぱい
エッチしたいからな

しょうがないなあ…♡



何だかんだ言ってお前も
膣中下口下口に濡らして
んじゃないかよ

だってえ♡

私もエッチ
したいんだもん♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

スリッパ...♡

スリッパ



おおおっ！

ああん♡
くっつけるの好き♡
やばい♡

あぁ♡
あぁ♡

あん♡
太一♡もっとな
カいっばいきて♡

あぁっ！いいぞ！
思いつきリイかせてやる！

ああん♡好き♡
またイっちゃう♡
イク♡イク♡

ドッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ドッ♡

ドッ♡



太一♡太一♡♡♡♡♡

あ♡

ああん♡

あん♡

ああん♡

ああん♡

ああん♡

ああん♡

ああん♡

ああん♡



くっ...おおっ!

ああああ...

ふふふふふふ

は

は

ああ...

あ...

ズググ

ト...

ト...

...



あっ♡そこ好き♡きくっ♡
おま〇ごキyunキyunキてる♡
クセになっちゃう♡

でもでも…好き♡
おち〇ちんマッサージ好き♡

あっ♡おち〇ちん重い♡
おま〇ご漬れちゃうよお♡

ふっ…ふん!
次はゆっくり
じっくり行くぞ!

はっ♡あっ♡
すごい波きた♡

あっ♡

はっ♡
はっ♡

グッ♡
グッ♡
グッ♡

ズッ♡
ズッ♡
ズッ♡





太一のあったかいの...

んんんんん

は♡♡♡♡♡

は♡♡♡♡♡

は♡♡ああっ♡♡

朱里っ！朱里っ！

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん



はあ♡ああ♡
太一♡好き♡好き♡

俺だっ…はあっ！
朱里…大好きだ

へトへトになりながら
お互いの身体を絡ませ合っ。



たいちい……♡

好き♡しゅき……♡
らいしゅき♡

♡……♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



はあ...はあ...
さすがに疲れたな

もう...飛ばしすぎ♥

はあ...はあ...



夜はまだまだ
長いんだよろ?

ふふ……

いっしょ♡

分かってるよ…
朝まで寝かせて
やらないからな

こわい♡

END























































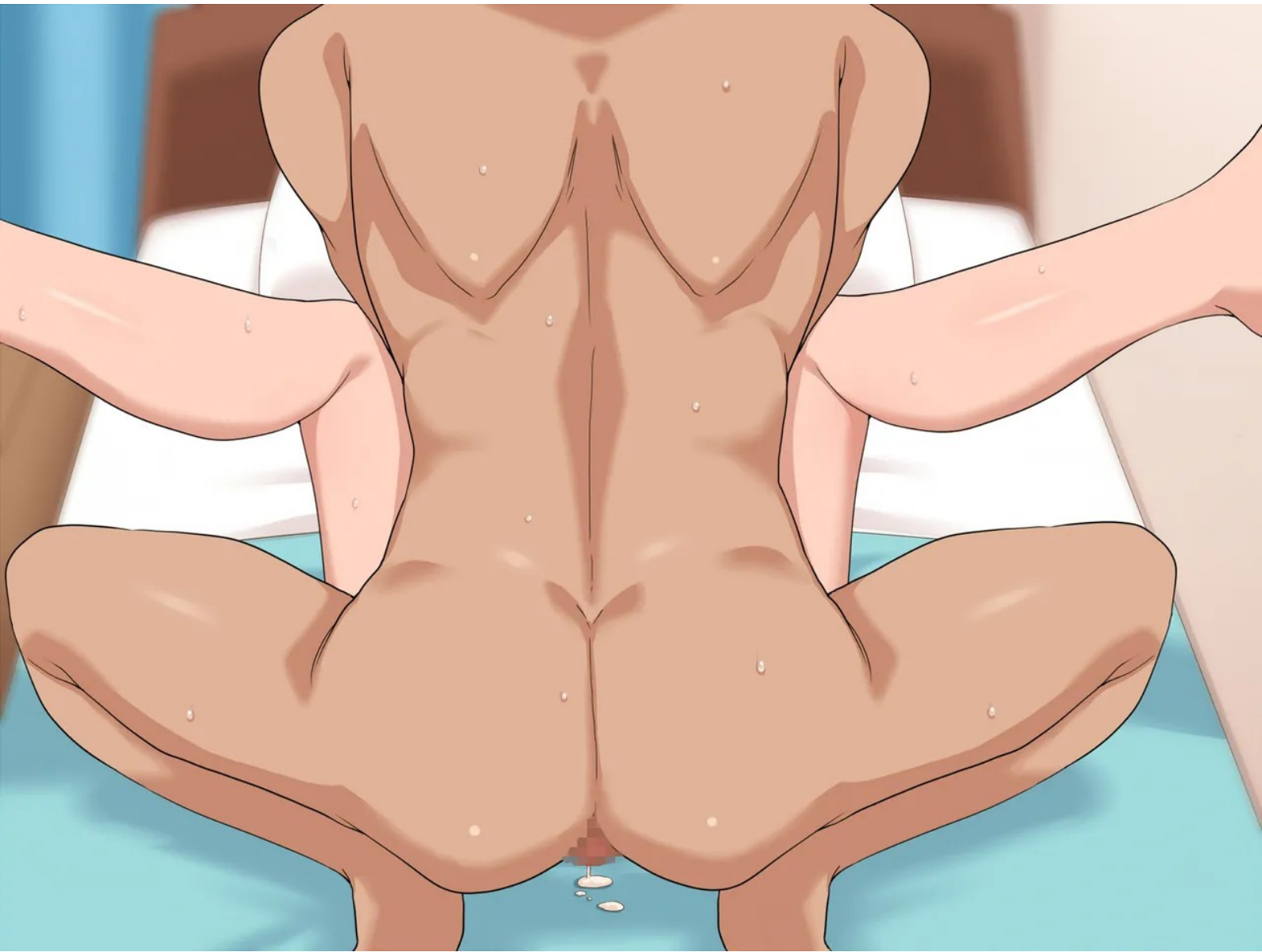


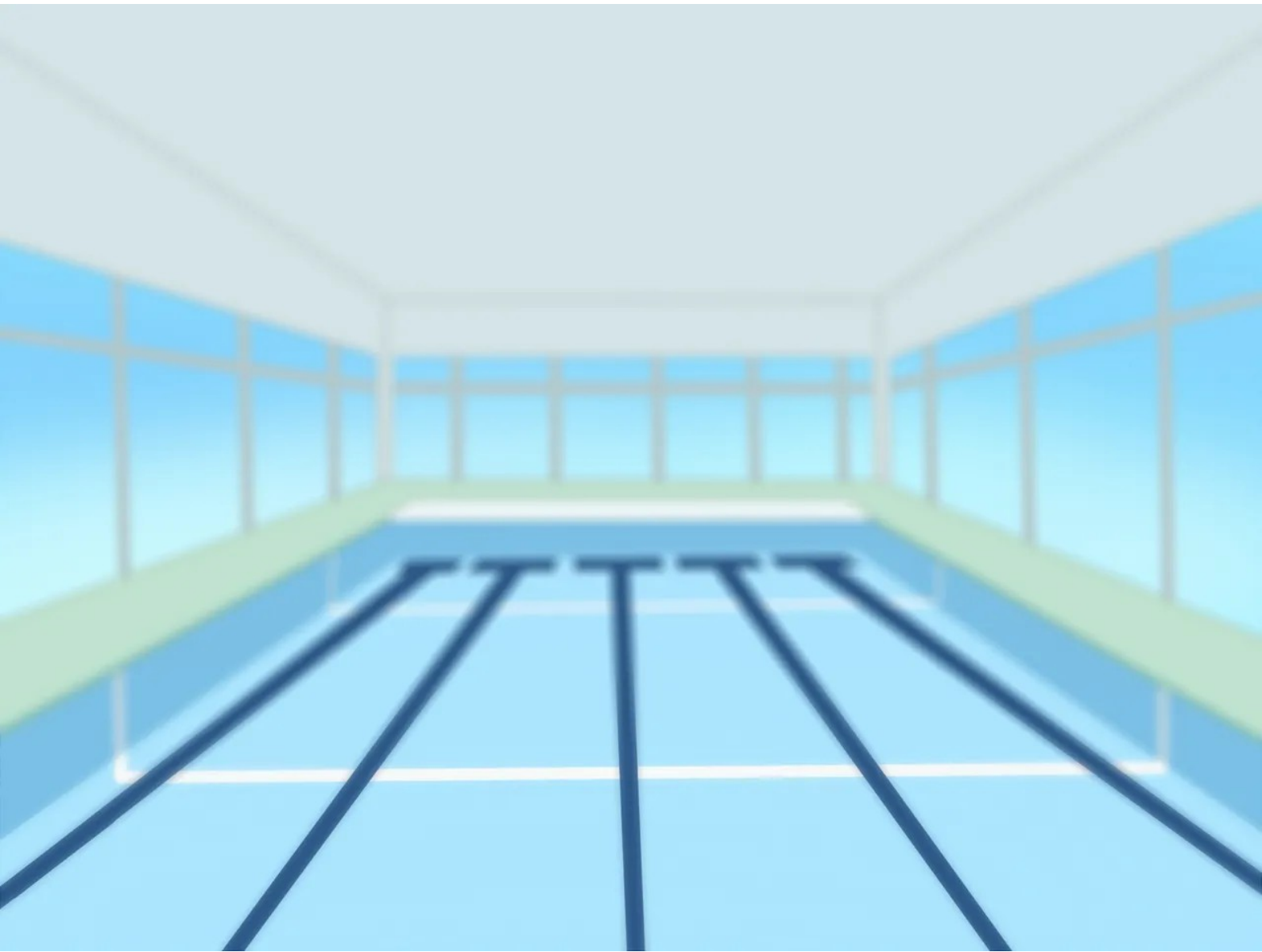


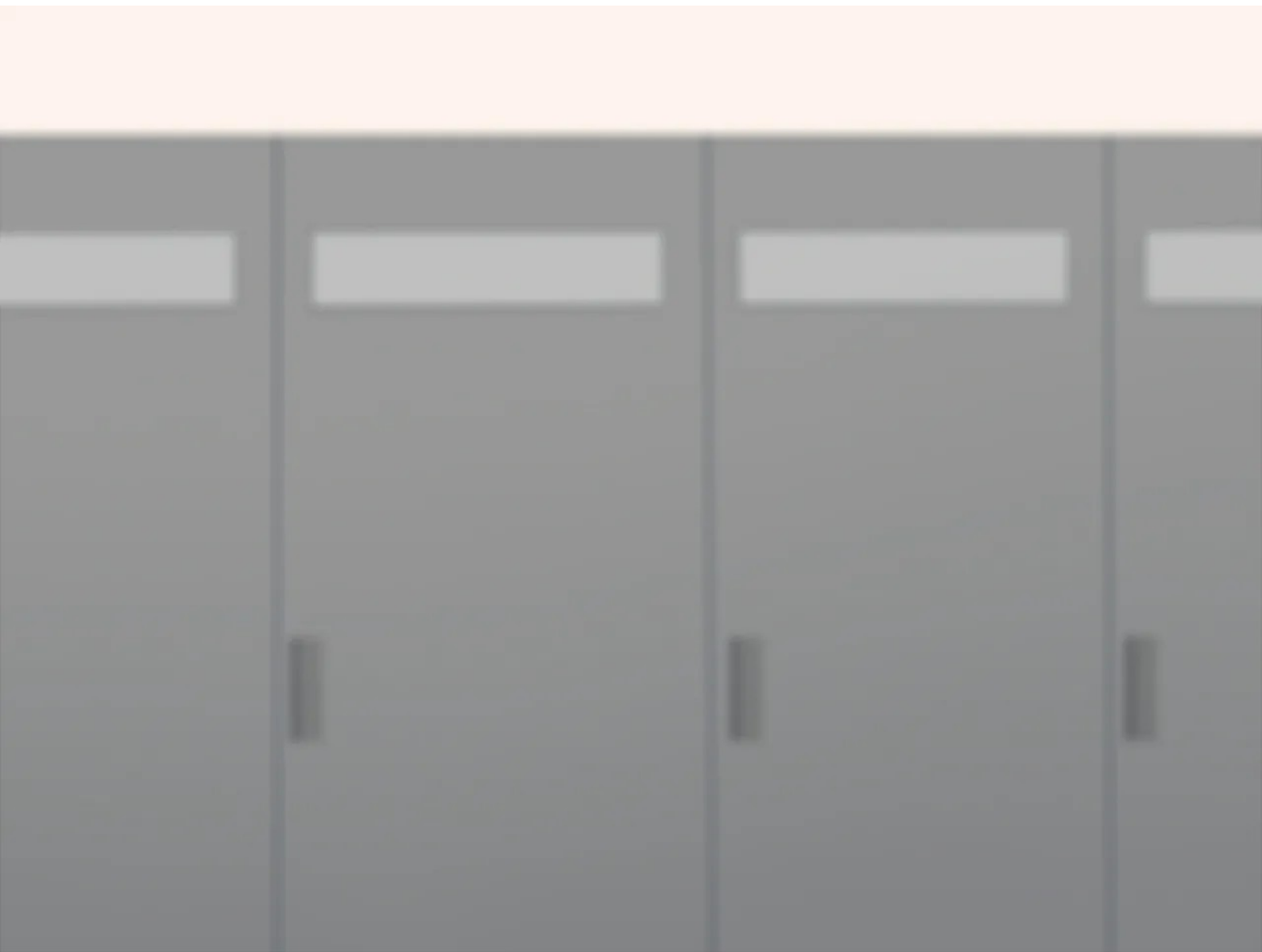




















































































この度はきつね屋根の作品をご購入いただきありがとうございます。とつとさせていただきます。

この作品はフィクションです。

作品の閲覧には画像ビューア等のソフトをご使用ください。

この作品でお楽しみいただければ幸いです。



今後とも当サークルの作品をよろしくお願ひします。

製作：きつね屋根

二〇一九年五月